

国際共同研究事業
欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム
(Open Research Area for the Social Sciences)
平成 28 年度実施報告書

平成 29年 3月 31日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

所属機関・部局 大阪大学・大学院人間科学研究科
職・氏名 准教授・森田敦郎

1. 事業名 国際共同研究事業欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム
2. 研究課題名 (和文) デルタにおける不確実性への対処：デルタ管理における実践と知識の多様性
(英文) Deltas' dealings with uncertainty: Multiple practices and knowledges of delta governance
3. 共同研究実施期間（全採用期間）
平成 28 年 1 月 1 日 ～ 平成 30 年 12 月 31 日（3 年 0 ヶ月）
4. 研究参加者
(1) 日本側参加者 8 名 (2) 欧州側研究者（代表者・各国代表者） 10 名
5. 主要な物品購入状況（一品又は一組若しくは一式の価格が 50 万円以上のもの）

物品名	仕様 型・性能等	数量	単価(円)	金額(円)	設置研究機関名

備考：50 万円以上の物品を購入等した場合のみ記入してください。

6. 人件費使用状況

氏名	金額	雇用期間	専門および本研究における役割
Casper B. Jensen	8,328,453	平成28年4月1日～平成30年12月31日	科学技術論・理論研究とメコンデルタ等での調査
中空 萌	613,788	平成28年4月1日～平成29年3月31日	人類学・環境科学におけるデータを取り巻く組織技術的問題の調査
古川不可知	300,359	平成28年4月1日～平成29年2月28日	人類学・研究代表者の補佐

備考： 研究者及び専門技術員・研究補助者を雇用した場合のみ記入してください。

雇用期間の欄の記入例：「平成27年2月1日～平成29年3月31日」

7. 渡航実施状況

(a) 日本側参加者（代表者を含む）の国内出張

出張者 (氏名)	出発地 (都市名)	用務先 (都市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**

* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」

** 本経費使用予定の有無を記入すること

(b) 当該年度に欧州側相手国を訪問した日本側参加者

出張者 (氏名)	出発地	用務先 (国名・都市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
森田 敦郎	デンマーク・コペンハーゲン	オランダ・デルフト	5月9日～5月13日、 5日間	プロジェクト全体会議に出席して、研究計画を議論するため	無
森田 敦郎	デンマーク・コペンハーゲン	オランダ・アムステルダム	6月18日～9月24日、 99日間	アムステルダム大学にて、オランダにおける水文モデルの発展についての調査をするため	無
Casper B. Jensen	カンボジア・プノンペン	オランダ・デルフト	5月9日～5月13日、 5日間	プロジェクト全体会議に出席して、研究計画を議論するため	無

* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」

** 本経費使用予定の有無を記入すること

(c) 当該年度に欧州側相手国以外の国を訪問した日本側参加者*

出張者 (氏名)	出発地	用務先 (国名・都 市名)	旅行期間**	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担***
森田 敦郎	大阪	タイ・バンコク	3月28日~3月31日、 4日間	プロジェクト全体会議のため	無
Casper B. Jensen	大阪	カンボジア・プノンペン	4月1日~5月7日、 37日間	メコンデルタ上部にてフィー ルド調査のため	無
〃		〃	5月16日~7月17日、 63日間	〃	無
〃		〃	7月31日~10月25日 87日間	〃	無
〃		〃	11月4日~12月9日、 36日間	〃	無
〃		〃	1月3日~2月3日、 32日間	〃	無
〃	大阪	〃	2月21日~3月28日、 36日間	〃	無
〃	カンボジア・プノンペン	タイ・バンコク	3月28日~3月31日、 4日間	プロジェクト全体会議のため	無

* 外国出張の渡航先は原則として、欧州側相手国のみを渡航先とします。ただし、当該共同研究の研究成果発表を目的とする学会等への出席や、フィールドワーク等で当該第三国へ行くことが必須である研究上の理由がある場合に限り、欧州側相手国以外の国を訪問することは可能です。

** 旅行期間の欄の記入例：「6月10~19日、10日間」（現地到着日~現地出発日）

*** 本経費使用予定の有無を記入すること

(d) 当該年度に受入れた欧州側相手国研究者

出張者 (国名・氏名)	用務先	旅行期間*	用 務

* 旅行期間の欄の記入例：「6月10~19日、10日間」（来日日~離日日）

8. 研究実施状況

※ 申請書の内容および当該年度実施計画書の「6. 本年度実施計画の概要」と対応させつつ、当該年度の研究の実施状況を簡潔に日本語にて記入してください。

①第一回全体研究集会（オランダ・デルフト、5月9日～13日）

オランダ、デルフトにて四カ国の研究参加者を集めた全体会議を開催した。研究参加者に加えて、外部からのシニア・アドバイザーとして、Martin Luther University of Halle-Wittenberg から Richard Rottenburg 教授を、ステークホルダー代表としてオランダのデルタ・プランニング関係者を招聘した。

会議では、各国チームが自らの work package の研究計画を発表したほか、オランダのデルタ・プランニング関係者からデルタ・プランニングの実践についてのレクチャーを受け、議論を行った。シニア・アドバイザーの Richard Rottenburg からは、申請書に書かれた研究計画についての講評を受けた。

②水文モデルのグローバルな展開に関する調査

森田と Jensen がこの調査を担当した。森田は、前年度から継続して6月までデンマークに滞在し、デンマークにおける水文モデルの発展についてのインタビューと文献調査を行った。ここでは特に MIKE モデル・シリーズの開発者である DHI（デンマーク水理研究所）と、DHI と近い協力関係にある DTU（デンマーク工科大学）を訪れて、インタビューを行った。また、オランダでは、UNESCO-IHE にて水文モデルの基礎技術の発展課程についてのインタビューを行った。

Jensen はプノンペン（カンボジア）に滞在して、MIKE シリーズに基づくダム影響評価モデルの実際の使用についての調査を行った他、水環境の評価、開発に用いられる水文学、生態学、システムダイナミクスモデルに関する調査を行い、カンボジアにおける開発政治と国際援助が、いかにして放題な数のモデルの国際的な流通をもたらしているかについての調査を行った。

③水管理に関連する環境テクノロジーのイノベーションについての文献研究

水管理に関する環境テクノロジーとそのイノベーションに関して文献レビューを行い、その成果を人類学的、科学技術論の分野において英文論文として2本発表した。また、その延長として、とくに科学的知識と他のタイプの知識の関係を人類学的観点から分析した英文論文を2本執筆した。

④気候変動を取り巻く、言説、文化的想像力、科学的予測の相互作用についての文献研究

気候変動をめぐる科学と文化的想像力についての文献研究を行い、その成果をフィールドワークの知見と合わせて分析した。その結果は、合計3本の国際学会発表として発表された。

研究発表（平成 28 年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（ 3 ）件 うち査読付論文 計（ 2 ）件

共著の有無*	著者名	論文標題			
		Morita, Atsuro	Encounters, Trajectories, and the Ethnographic Moment: Why “Asia as Method” Still Matters.		
無	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
	East Asian Science, Technology and Society	無	Online first	2017	1-12
有	著者名	論文標題			
	Casper Bruun Jensen, Christopher Gad	Lateral Concepts			
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
	Engaging Science, Technology and Society	有	2	2016	3-12
無	著者名	論文標題			
	Casper Bruun Jensen	Attuning to the Webs of En: Ontography, Japanese Spirit Worlds, and the ‘Tact’ of Minakata Kumagusu			
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
	Hau: Journal of Ethnographic Theory	有	6	2016	149-172

〔学会発表〕 計（ 3 ）件 うち招待講演 計（ 2 ）件

発表者名	発表標題		
Morita, Atsuro	Alterity within: Hydrological Models, Environmental Mimesis and a Fluid STS in Hydraulics.		
学会等名	発表年月日	発表場所	
Environmental Alterities Seminar	2016年9月16日	University of Amsterdam, Amsterdam, the Netherlands	
発表者名	発表標題		
Morita, Atsuro	Reconfiguring Adaptive Subjects: Territorializing Vulnerability and Resilience in Climate Change Adaptation.		
学会等名	発表年月日	発表場所	
Paper presented at Annual Conference of American Anthropological Association.	2016年11月19日	Minneapolis Convention Center, Minneapolis, USA	
発表者名	発表標題		
Morita, Atsuro	Environmental Data and Socio-cultural Anthropology: Experimentation in Mediating Scales and Domains.		
学会等名	発表年月日	発表場所	
International Co-Design Workshop on Earth observation in Support of the Sustainable Development Goals – The Case of Urban Areas in Asia	2017年1月17日	日本学術会議、東京、日本	

〔図書〕 計（ 2 ）件

共著の有無*	著者名	出版社		
	Atsuro Morita, Casper Bruun Jensen	London and New York: Routledge		
有	書名	発行年	総ページ数	
	Infrastructures and Social Complexity: A Routledge Companion	2016	442	
有	著者名	出版社		
	Casper Bruun Jensen, Christopher Gad	Mattering Press		
	書名	発行年	総ページ数	
	“Lateral Comparisons.” Joe Deville, Michael Guggenheim & Zuzana Hrdlickova(eds), Practicing Comparison. Revitalizing the Comparative Act.	2016	189-219	

- *欧州各国研究代表者との共著がある場合は○、欧州各国研究代表者との共著であり論文内に事業名を明記している場合は◎と記入した上で、明記されている箇所（頁、巻頭、巻末等）を記入。
- *足りない場合は適宜行を追加して下さい。